

独断

注目商品

これからは、定植前防虫



■お問い合わせ
シンジェンタジャパン株式会社
〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10
オフィスタワーX21階
TEL: 03-6221-1001 (代)
<http://www.syngenta.co.jp/>

殺虫剤

52 ジュリボフロアブル

「ずばり」これからは、「定植前防虫」というのがキャッチコピーの殺虫剤ジュリボフロアブル。定植前日、または定植当日の苗シャワー処理1回で定植後の約1ヵ月、高い防虫効果が持続する。適用作物はキャベツ・はくさい・レタス。苗に1回、灌注処理することで定植後約1ヵ月間、チョウ目、アブラムシ類、ネギアザミウマなどの幅広い害虫に優れた防除効果を発揮して、作物をこれらの害虫被害から守る。

と、春から夏にかけての定植時期は作業が混みあう。特に雨が続いてしまつと、定植した苗の1回目の防除ができずに焦る。本剤はその1回目の防除を、定植前に苗がセルトレイやペーパーポットにある状態で済ませてしまふ。有効成分は根部から吸収されて、植物全体に移行する。また苗を圃場に定植した後も有効成分は新葉に移行して、定植後約1ヵ月は防虫効果が持続するから、作業にはずいぶん余裕が生まれるはずだ。そもそも圃場で防除するより、セ

ルトレイで処理したほうが省力化できるのは間違いない。しかも1回の定植量がセルトレイ100枚までなら、ジョウロで手軽に処理できる。もし1日の定植量がセルトレイ100枚を越えるようなら、動力噴霧器での処理が効率的だ。

さて動力噴霧器のノズルは通常、ミストに近い「霧」を噴霧するが、本剤の処理にはジョウロに近い「シャワー」が理想的であり、このためヤマホ工業(株)から専用ノズル「ジュリボ用1頭口」が発売されている。この専用ノズルは、通常のノズルと比べて処理液の粒子が大きく、すばやく多量の処理液を噴出できる。

一般的にノズルから多量の処理液を出す、噴出口の中心部は液が多くなり、逆に周辺部は液が少なくなるといふ問題があった。「ジュリボ用1頭口」では、噴出パターンを均一化するために、ドーム型オリフィスを2枚重ねて使用している。この2枚の間にはパッキンが仕込まれており、隙間がある構造になっている。1つ目のオリフィス型オリフィスだけでは噴霧パターンの角度が広く、その両端の噴霧量が少ないため、2つ目がその部分をカットする。こうすることで、ほぼすべての場所での吐出量が均一化される構造だ。



実は、定植前に処理できる殺虫剤は本剤が初めてではない。シンジェンタジャパン(株)の場合、アブラムシ類対策などのアクタラ顆粒水溶液、チョウ目対策などのプレバソソフロアブル5などを既に発売している。本剤はそれぞれの有効成分、チアメトキサムとクロラントラニリプロールが両方使われており、2つの有効成分が互いを補完している。これによって1剤で幅広い殺虫スペクトルをカバーして、さらに1ヵ月の有効期間を持つようになったので、冒頭キャッチコピーを売りにした殺虫剤となった。幸い「だからお値段も2倍です」ということはなくセルトレイ1枚分は約85円ほどのコストだ。現在、適用作物にブロッコリーを申請中であるとのこと。葉物を栽培しているなら要チェックだ。

(長谷川竜生)